



発蕾（はつらい）以降、撮影した画像を基に開花日を予測。ウェアラブルに平均開花予測日を表示する。長崎県農林技術開発センター提供。

ハウス環境制御

長崎県農林技術開発センターは、人工知能（AI）を使った輪菊の自動栽培システムの開発・実証を進めている。スマートフォンで収穫予定日を入力すると、AIがハウス内の株の状態を解析して、温度などを制御し、生育を調整する。他品種への対応も検討し、実用化を目指す。

AI使い、輪菊自動栽培



ハウス内に設置したカメラで撮影した画像をAIが解析。病害などが疑われる場所を赤枠で囲い、生産者にメールで知らせる（同）

生育段階ごとに

ハウス内環境は、ポンプ、炭酸ガス施用が開発した「長崎型統合環境制御装置」で管理できる。生育ステージごとに環境制御を自動でできる。

長崎県農林技術センター「花きの省力化推進

ようにする「自動栽培システム」を構築。さらにAIによる制御も組み合わせる。作業者はまず、ウェアラブル上で品種名と収穫予定日を入力。するとプログラムに基づいて適した管理方法が設定される。AIは、株の様子を上から撮影した画像から、つぼみの状態を解析して開花期を予測する。

現在の対応品種は「神馬」だけ。今後、対応品種の追加も検討する。試験を担当した同センターの久村麻子主任研究員は「スマート農業技術の開発が遅れる花き分野での省力化につなげたい」とする。試験は、2024年度までの3年間、農水省の戦略的スマート農業技術等の開発・改良事業で実施した。長崎大学や、ディールンSPなどとの共同研究。（後藤真唯子）

インターネット経由で環境制御の設定を更改できるようにして、収穫予定日に合わせて生育を調整していく。AIが、生育不良や病